■平成 24 年度春の総会の開催(6/16)

- □平成23年6月16日(土)13時00分より
- □高知会館
- **□参加者数** 総会 35 名

祝賀会及び講演会 74名

懇親会 52 名

本年度の春の総会は、四国本部総会及び技術士二次試験合格者祝賀会を兼ねて行われた。

□ 春の総会

総会は、右城代表幹事の挨拶に続いて、明 坂事務局長より平成 23 年度事業報告と収支 決算報告、岡田監事より監査報告があり満場 一致で承認された。

また、役員改選があり、橋口幹事、小澤幹事、池本幹事の3名が退任され、新たに川崎幹事(県建設検査室)、森下幹事(県建設検査室)、小松幹事((株)四電技術コンサルタント)、吉良幹事((社)四国建設弘済会)の4名の幹事が選任された。

平成23年度事業計画、収支予算についても 満場一致で可決された。

続いて、新入会員6名、松尾保明[建設部門 -鋼構造及びコンクリート,(株)四国トライ]、前田 綾子[環境部門-自然環境保全、財団法人高知 県牧野記念財団]、島内康男[上下水道部門-下水道、テクノウェーブ(株)]、北川奉功[建 設部門-道路,いの町役場]、小林亮太郎[建設 部門-建設環境、(株)宮崎測量設計コンサルタ ント]、芝田和仁[建設部門-道路、(株)ロイヤ ルコンサルタント]が紹介され、出席された松 尾氏、北川氏、芝田氏より自己紹介が行われ た。



右城代表幹事の挨拶



新任幹事による自己紹介



新入会員による自己紹介

□ 平成 23 年度技術士第二次試験合格者祝 賀会

祝賀会は、まず、(公社)日本技術士会四国本部の武山副本部長よりご祝辞を賜り、合格者5名(黒石氏欠席)、黒石和俊[建設部門-道路,国土交通省土佐国道事務所]、島内康男[上下水道部門-下水道、テクノウェーブ(株)]、北川奉功[建設部門-道路,いの町役場]、谷英樹[上下水道部門-下水道、土佐市役所]、芝田和仁[建設部門-道路、(株)ロイヤルコンサルタント]が紹介され、それぞれ自己紹介が行われた。この後、小川幹事より(公社)日本技術士会四国本部の紹介があった。



武山副本部長より祝辞



合格者による自己紹介

□ 講演会

講演会に先立って、(公社) 日本技術士会四 国本部の加賀本部長より開会の挨拶があり、 続いて、来賓の高知県 尾崎正直知事(代理 野村土木部副部長)、国土交通省高知河川国道 事務所 野仲典理所長、高知工科大学 佐久 間健人学長よりご祝辞を賜わった。



加賀本部長より開会の挨拶



尾崎知事より祝辞(代理 野村土木部副部長)



国交省高知河川国道事務所 野仲所長より祝辞



高知工科大 佐久間学長より祝辞

講演会は、「GPS津波計・波浪計・潮位計の開発」と題して、高知工業高等専門学校 環境都市デザイン工学科 寺田幸博教授、「牧野植物園植栽工事 10 年を振り返って~植物の生育基盤について~」と題して、高知県立牧野植物園園芸部 黒岩宣仁部長より講演を頂いた。

1)「GPS津波計・波浪計・潮位計の開発」 高知工業高等専門学校 環境都市デザイン 工学科 寺田幸博教授

寺田教授からは、GPS津波計を15年間か けて開発した経緯として、阪神大震災を経験 して自分の技術で防災(特に地震)に役立つ ことがないかといことから始まり、当時津波 計測としては、超音波によるもの、海面の圧 力変化を海底で測るもの等があったが、アメ リカが軍事目的で開発したGPSを使い、波 の上下運動を捉える方法を考えた。この方法 が国土交通省より、技術開発最優秀賞を頂い たことを機に文科省等より開発費が取れるよ うになり、相模湾基礎機能実験、大船渡実験 を行い、大船渡実験では2001年ペルー沖地震 で初めて津波を捉え、2003年の十勝沖地震で は初めてリアルタイムで観測ができた。その 後高知県室戸沖の黒牧2基にGPS津波計を 設置された。この室戸沖の津波計にフェリー が衝突し津波計が沈没したが、2年間の保障 交渉の末、復活した(浮体が 3.4mから 4.5 mに太った)。津波観測でGPS計測とシミュ レーション結果が3波まで整合し学問的価値 が高まったこともあり、地震学会ニュースレターの表紙を飾り、GPS津波計が認知された。また、高校の教科書にもGPS津波計が掲載されるようになった。現在、GPS津波計は100km沖まで設置可能となっている。

東北地方太平洋沖地震では、釜石沖20kmに設置した、GPS津波計がリアルタイムで6.5mを観測したことにより、気象庁がこの情報をもとに、宮城県の津波予想高を6mから10m以上に切り替えることとなり、大いに役立った。また、陸上の通信網の破壊によって第一波以降配信が停止したが、その後のデータが基準局のハードディスクに蓄積されており回収することができ、貴重な津波のデータが得られた。この貴重な情報は、翌日NHKの「おはよう日本」でも紹介された。

寺田教授より、最先端の津波計開発についての非常に興味深いお話を頂き、南海地震の防災対策にも大変参考になるものであった。



高知工業高等専門学校 寺田教授の講演

2)「牧野植物園植栽工事 10 年を振り返って 〜植物の生育基盤について〜」高知県立牧 野植物園 園芸部 黒岩宣仁部長

黒岩部長からは、牧野植物園の植栽工事の考え方、植栽工事の概要、現在の生育状況等についてお話を頂いた。

牧野植物園の植栽は、絶滅危惧種や貴重な植物の保存・増殖、牧野富太郎博士の業績を生きた植物で表現する、五台山の歴史や自然環境に調和した園地づくり、研究に役立てる等の考え方をもとにつくられた。また、牧野植物園の入口付近には、牧野博士を育んだ土

佐の豊かな自然の再現、県外・国外の来園者 に対して土佐の自然の豊かさを知ってもらう こと、県内の来園者には自分たちに暮らす土 佐の自然の豊かさを知ってもらうということ から、土佐の植物生態園を配置した。この土 佐の植物生態園において、尾根部は針葉樹、 谷部にはつつじ等の低木層、その間には常緑 樹等を植栽し、通常の自然を再現している。 植栽工事は、造成・建築工事、造園石材の現 場採取、土壌改良、表層客土工、植栽の順番 で行われた。当初は植栽の生育状況が悪く、 この原因として、造成工事において赤色土の 締め固め過ぎにより土壌中の酸素濃度が乏し くなったこと、土壌改良の効果がなかったこ と、植栽の植え穴を重機で掘ったため排水が 悪く根腐れをおこしたこと、表層土20cm客 土したことが深植えの原因となったこと、植 栽工事が最悪の夏期となったこと等が考えら れた。その後、植栽土として適した土壌は深 さ20cmほどしかなかったため、直径15cm 深さ 35 c mの穴を樹木の回りに掘り、パーラ イト、パーク堆肥、良質土を混ぜ合わせ、樹 勢回復を図り、現在も生育状況が悪いところ もあるが、順調に回復してきている。また、 この 10 年の成果を生かし、2009 年に作った 新温室の樹木は順調に育っているとのこと。

黒岩部長は、1998年に帰高して以来、牧野植物園の植栽工事に最初から携わってきており、黒岩部長の牧野植物園への強い思いが伝わってきた。



牧野植物園 黒岩部長の講演

□ 懇親会

懇親会は、右城代表幹事((公社)日本技術 士会四国本部副本部長)の挨拶・乾杯で始まり、会員同士の懇親を深め、(公社)日本技術 士会四国本部の須賀副本部長の中締めにより 閉会した。



右城代表幹事による乾杯



須賀副本部長による中締め